

作戦1

あったか〜いアイデア募集

家庭につくる公園。どんな公園にしていくか、くつつかのキーワードが出てきました。おとしよりと子どもが寄る「保護者と子どもが寄る」「地域の誰もが寄れる」「下校時の見守りの人の集合場所に」出てくる出てくる。この想いをカタチにするためにみんなで絵にしてみました。

この取り組みを知ってもらい、地区民をぐつ巻き込む。そこで名案、市民が多く集まる農業文化祭。この一角を借りて「田幸まるごと応援団」コーナーのブースを出すことに。



田幸まるごと応援団がめざす地域活動をPRする方法として、①「地域みんなの公園」ネーミングの募集②田幸まるごとキャラクターの公開選定を行いました。

「公園の絵が楽しそつ、キャラクターがかわいい」と子どもたちが意中のものに喜んで投票。その後ろで見る保護者や地域の人も「記念品プレゼント」という字を見るや、子どもに交じって参加していました。この記念品は、なんとせりじが



けられた見事な「白菜」。農業文化祭ならではですね。

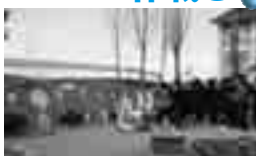
作戦2

公園のネーミングは「ポプラひろば」

2月の終わり、田幸まるごと応援団6年生児童、保護者、地域の人が集まり1日かけてポプラひろばを造りました。6年生以外の学年もチラホラと。木の電柱をもらって造る花壇や、中学校から寄贈されたカシ、ツツジなどの木を植えたり、木のベンチには子どもたちが考えた絵を描いたり、本当に手造りならではの味です。驚かされたのは、本格的な道具類に加えて重機、クレーン付トラック。せくふ地域の人の持ち寄りです。

単なる交流会やイベントではなかなか味わえない子どもと地域の人とのやりとり。力のいる作業は、地域のおやじの出番。口数は少なく「やってみせる」まさに「背中をみて育てる」です。それぞれがいろんな所で作業をしているのに、校庭に一体感がありました。子どもも大人も「同じ目標」に向かっていくからです。

みんなでオープンニング



3月中旬、みんなで造ったポプラひろばのオープンニングセレモニーを行いました。当日は、一斉下校の日にあわせて集まった地域の見守り活動のメンバーをはじめ、

地域の人約130人。このひろばには、卒業制作にみんなで描いた壁画も備えしました。そして、小さな子どもをつれたお母さんも来られるように、小さなかわいい砂場や遊び道具なども準備しました。

実際にひろばづくりに関わった人はもちろん、そうでない人も、なんかうれしそつです。



1年間とおしてみてきたもの

1年目でここまでカタチになったポイントがいくつかあります。

1つ目は「校長がテーブルで「夢」を話したこと」です。なかなか地域・学校とも気をつかい合って「負担になってはいけない」がまず先に立ちます。でも、目の前の負担ではなく、ずっと先を見越して「田幸の子どもがよくなるように」「こを見据えてのことでした。また、発言したら「やらないといけない」ではない、自由にしゃべれるテーブルの雰囲気があったことでした。

2つ目は、地域が「田幸のみんなが幸せになるように」という想いに、校長の「夢」が重なり、それをカタチにしていくパワーがあったことでした。

3つ目は、3年後の目標を考え、それに基づいた活動の柱を決めたことでした。「ほやっ」としていった地域まるごと

とのイメージが、具体的になり応援団のメンバーが取り組みやすくなりました。

4つ目は、「できない」ではなく、「とにかくやってみよう」の気持ちです。やっていくと決まると学校と地域が細かい調整をしながらカタチにしていきました。地域の行事（農業文化祭）や学校の行事（卒業制作等）をうまく組み合わせた無理のない計画でした。

5つ目は、応援団の企画に協力した田幸の地域住民のパワーです。応援団だけの活動におわらせないように、応援団の□□ミで協力者を増やしていった情報発信力と巻き込み力でした。

そしてこれから

まだまだ1年目が終わったばかり。知縁を拡げる土台になるポプラひろばができました。これからは、それをもとに知縁を幾重にも重ねていくための活動を計画しています。また、今回の活動をおとして感じたのは、活動している子ども「笑顔」の素晴らしさです。そして、一緒に活動する大人の「笑顔」「笑顔」が増えれば、会話ははずむ。そこから知縁が広がります。そう考えると「笑顔」は知縁の種かもしれません。これからも田幸まるごと応援団から目が離せません!!

問合せ先：三次市社会福祉協議会

☎0824-630-8975

担当：柏矢

☎082-254-35006

担当：吉野

地域まるごと福祉教育推進事業

“まるごと”いうたら通じるけえ 田幸は!? ~夢が実現!!ポプラひろるばかり知縁づくり~

—三次市田幸小学校区（指定1年目の取り組み）—

田幸小学校区は、三次市の東部に位置する地区人口約1,700人の町。この地区では、地域の関係者と小学校のメンバーでテーブル（連絡会）をつくり、小学校と地域の関係団体（自治会連合会が中心）が、協力しながら進めていくカタチです。すすめていくうちに、新たな活動が生まれました。きっかけは、あるメンバーの1人が想いを声に出し、それに共感したメンバーが、一つずつ創りあげました。それでは、1年間密着したこの田幸小学校区のまるごと物語、みなさんに紹介しましょう。

わんわん

地域まるごと福祉教育推進事業（以下「地域まるごと」）の事始めは、「福祉教育」いわれものおろわからんのよ」「大人」「教育」いうて、ふさわしくない思うんじや」「話し聞いとりや〜もうみな地域でやっとする活動じゃわ〜」こんな会が数回続いた後、「とにかく地域あげて〜くらし」をよくするために考えて、活動にしていくんじやの」ということにまとまり、その勢いで、テーブルの名称は、「田幸まるごと応援団」に決定!!

熱い想い

ある日のテーブルで、熱い想いがはじけました。

田村校長が「これは、夢ですんで無理だと思えますが。学校の校庭に公園をつくりたいんです。ポプラの木陰にベンチでも作って、地域の人と児童がふれあう場をつくりたいんです。学校で教えられないことが、地域の人のふれあいの中にはあるんです。あくまでも夢ですが……。」

福本会長が「私は、学校の余裕教室をつかわせてもらいたいんですが。できれば、畳でも敷いて子どもがゴロンと寝転べたり、地域のもんが絵本を読んでやりたい思うんじや」

テーブルメンバーからは「教室に入れいわれでも、いきなりは入りづらいのう」「校庭ぐらいいじやったら大丈夫ー」「校長さんの夢なんとかしてみようかあ」

この想いを単発で終わらせたくない。そんな想いからみんなで3年間の計画をつくり、その目標に向けて走り出しました。

みんなで考えた3年間

- ◆1年目⇒校庭に地域の人が集える場づくり!!
 - 公園のネーミング募集（農業文化祭）
 - キャラクターの募集（農業文化祭）
 - 公園づくり
- ◆2年目⇒校舎内に地域の人が集える場づくり!!
 - 空き教室に畳を敷いた地域ふれあい教室へ
- ◆3年目⇒地域ふれあい教室で暮らしの悩み相談
 - 地域の人同士が子育ての悩みや暮らしの悩み相談にのれるようにする

“この柱ができて、活動をすすめやすくなった。やり出してはじめて県社協がいう意味がわかってきた”とのこと。

その第一歩で



完成!!